

キャブレターの夏バテ パーコレーション／点火系のリーク

いくら外がピーカン良い天気でも高温でも交通が流れていれば走行風でエンジンは冷却されキャブレターも新しい燃料がどんどん供給され気化熱で冷却もされるのでエンジン不調でない限りオーバーヒートは発生しません。ただ一旦渋滞になると、走行風が期待できず、シリンダー温度が上昇し、キャブに熱が伝わり、燃料消費も落ちるため気化熱冷却も期待できません。渋滞走行が続くとどうなるのでしょうか？

オートバイの燃料タンクはエンジンの上部にあり走行風のない状態では下からじっくり、炎天下では太陽光で上からも攻撃されます。両面焼きのオーブンの状態です。

燃料自体も高温になり、燃料ホースもエンジン内部を通る／5以降のモデルではまともにエンジンの熱を貰ってしまいます。調べてみるとガソリンの沸点は30-220℃ぐらいのようです。水は100℃みたいに言えないのは混合物だからのようです。それでもチンチンに触れないぐらい熱くなったキャブレターに高温のガソリンが入ればかなりの量の成分が沸騰するはず。燃料に気泡が混じり油面を押し上げ、締りの悪い水栓の様にじわじわ漏れ出てきます。キャブレターに入ってくる空気もエンジンの熱気で温められたものです。

パーコレーションで調べると混合気が薄くなると記載されているものもあります。

レイアウトの関係でキャブレターに供給される燃料が途中で気化しだすと供給量が減るのでガス欠するなどの問題も起こるのでしょう。

渋滞走行で不調になるとプラグがかぶり失火、点火系の熱ダレで失火、ライダーはイライラ

点火系も高温になるとリークを起こしやすくなるので注意が必要です。

イグニッション・コイルの設置位置、プラグコードの取り回し、アースが近いと逃げます。プライマリー抵抗が低いとコイルに熱を持ちます。ポイント点火ではギャップにアークが飛んでプラグは失火します。交通の流れがスムーズになって調子が戻りようであれば一時的なオーバーヒートなのであまり心配は要りません。アイドリングが高いと発熱が促進されますので安定した低い回転に合わせるようにしたいところです。



点火コイル:熱成されすぎて、、、



プラグコード:ここから逃げてくださいと言っているような

CRIMECA